

VOL. 9

MONTHLY

# UP

Useful  
Printing  
Information

印刷に関する用語、こぼれ話  
業界のトレンドなどの情報を  
毎号ご紹介していきます。



次号では、  
フォントについてを  
予定しています。

SEZAX

本社・工場	〒146-0091 大田区鵜の木2-9-7	☎03(3758)2511(代)	☎03(3758)2754
		営業専用	☎03(3758)2544
渋谷コア	〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル	☎03(3400)9211(代)	☎03(3409)7315
八丁堀コア	〒104-0032 中央区八丁堀2-19-8 八丁堀ビル6F	☎03(5566)1061(代)	☎03(5540)8304
マニュアル企画部	〒146-0092 大田区下丸子3-8-6 ブルーハイツ	☎03(5482)2751(代)	☎03(5482)2777
下丸子工場	〒146-0092 大田区下丸子2-20-4	☎03(3758)2511(代)	☎03(3758)8850

株式会社セザックスクリエイティヴ  
〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F ☎03(3409)4970(代) ☎03(3409)2732  
株式会社セザックスインターナショナル  
〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F ☎03(3409)0521(代) ☎03(3409)6610



この小冊子には環境にやさしい大豆インクを使用しています。

この小冊子は再生紙を使用しています。

DTPが変えたもの。  
変わらなかったもの。



デスクトップ・パブリッシング。そう聞いても、いまひとつピンとこないかもしれませんが、DTPという言葉なら耳にしたことがあるでしょう。いま印刷・出版業界の多くが採用しているDTP。それは、文字の入力、レイアウト、イラストや写真のはめ込みといった作業をパソコンのモニター上で行うというものです。その登場は1985年のことでした。

## DTPが 変えたもの。 変わらなかったもの。

専門の雑誌も発刊されるほど、  
さまざまな分野の人から注目されているDTP。

こんにちの印刷はDTP抜きには語れません。

職人的な手作業から、デジタルの世界へ。

印刷の前工程を劇的に変えた  
このDTPの現状に、今回は焦点を  
あわせてみましょう。

かつては、写植から版下、版下から製版というプロセスを手作業で行い、印刷の元になるフィルムを作成していたものが、DTPによって1台のパソコン上でできるようになったわけですから、印刷業界が受けたインパクトは大変なものがありました。そして、デザイン・印刷のワークフローをデジタルの世界にシフトさせたこのDTPは、高性能なOSやソフト、プリンターの普及とともに、またたく間に浸透していったのです。登場から16年を経たいま、DTPのテリトリーは印刷・出版業界のプロユースだけでなく、オフィスでの文書の作成、さらには一般の人が趣味で活用するところまで広がっています。

プロとアマの境界線を消した、ともいわれるDTP。確かに、プロにゆだねるしかなかった印刷の仕上がりのイメージを、誰もが手軽にモニター上でプレビューできるようにはなりました。しかし現実として、印刷の原理やプロセスを熟知していない人の手で作成されたデータはトラブルが発生しやすく、また印刷のクオリティという意味で不完全であることも珍しくありません。つまり、DTPによって印刷の前段階のワークフローは著しく合理化されましたが、そこには専門知識がなくとも「ある程度」形になってしまうという側面があり、それがDTPの直面する課題となっているというわけです。

DTP登場以前は、写植や版下といった工程を、それぞれのプロフェッショナルが担っていました。いかにして文字を美しく読みやすくするかといういわゆる「組版ルール」などをひとりひとりが熟知していたわけです。こうした独自のノウハウまでは、いかに優れたコンピュータやアプリケーションでもフォローできません。表面的には、DTPによってプロとアマの境界線がなくなったようにも感じられますが、実際のところ、いまDTPに携わる人々には、より一層のプロフェッショナルリズムと幅広い知識が求められるようになっているのです。

